

ご旅行要項

- 旅行代金に含まれるもの
- ①企画手配料・及び手配料金
 - ②交通費：旅程に明示した航空機（エコノミークラス）
 - ③宿泊費：旅程に明示した宿泊施設
 - ④食事代（朝3回 昼4回 夕3回）
 - ⑤視察費用：手配料
 - ⑥手荷物運搬料：一人1個、15Kgまでの手荷物運搬料金
 - ⑦見学費用：旅程表に明示した市内の見学のガイド料、入場料（自由時間は除く）
 - ⑧旅行傷害保険（死亡1,000万円、入院1日当たり6,000円、通院1日当たり4,000円）
 - ⑨添乗員同行の費用：1名

- 旅行代金に含まれないもの
- ①旅程に記載のない行動をされる場合の宿泊、交通費、食事、及び個人的に購入（お土産、飲食等）したもの。
 - ②自宅～集合場所/解散場所～ご自宅までの交通費
 - ③障害・疾病に関する医療費・入院費。
 - ④一人部屋追加料金：（15,000円/3泊分）

ご旅行条件

旅行条件の詳細は「旅行業約款」（募集型企画旅行契約）によります。この旅行は2020年8月20日現在を基準としています。

■旅行契約の解除

参加者が最低実施人数に達しなかった場合は、旅行を中止することがあります。この場合は出発の13日前迄にお知らせします。

＜取消料＞

お客様都合で旅行を取消す場合は、下記の取消料をお支払いいただきます。

＜解除時期・取消料＞

契約の解除期日	取消料
旅行開始日前日から起算して遡って20日前以降	旅行費用の20%
旅行開始日前日から起算して遡って7日前以降	旅行費用の30%
旅行開始日前日	旅行費用の40%
旅行開始日当日	旅行費用の50%
旅行開始後の解除、無連絡不参加	旅行費用の100%

波が高く、荒い海として知られる玄界灘。リアス式海岸の変化に富んだ東松浦半島では、伊勢海老やヒラメ、サザエなど多くの海産物が水揚げされています。なかでも、呼子のイカは佐賀を代表する海の幸として有名で、特に鮮度抜群の活き造りは、普通のイカ刺しでは味わえないコリコリとした歯ごたえで甘みもたっぷりです。



舌岐島内の八幡地区内には、今なお海女さんが海人族からの伝統の潜水漁を行っています。乱獲を防ぐためにウェットスーツは着用せず、レオタード姿で潜っています。うにめしは明治時代から作られてきたもので、一般的には炊き込み飯です。島の宝ともいえるウニをごはんと混ぜて炊き込む贅沢な料理です。

対馬ならではの「黒い麵」。センダングを使用したうどんのような黒く短い麵で、サツマイモのでん粉だけでできているのでとってもヘルシー。地鶏や魚のだしで作ったスープで食べます。弾力のあるプリッとした独特の食感は1度食べるとクセになります。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業84号 JATA正会員

 株式会社 富士国際旅行社

〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-711F-4
総合旅行業務取扱管理者：西須輝理

TEL : 045-212-2101 FAX : 045-212-2201
henshu@fits-tyo.com 担当：山田・金光・小山

●この旅行に関するお問合せ・お申込みは下記まで
営業時間：月～金曜日／AM9:30～PM6:00
（土曜・日曜・祝日は休ませていただきます。）
ホームページ：http://www.fits-tyo.com/

お申込方法

①同封の国内企画旅行取引条件説明書面をご確認の上、別紙申込書にご記入いただき、富士国際旅行社宛に郵送またはFAXでお送りください。

②申込金20,000円（旅行費用内金）または旅行費用全額を富士国際旅行社宛に下記郵便振替口座へご送金ください。（申込書と申込金の両方の到着をもって正式申込）

郵便振替口座番号 00140-4-39332 加入者名 株式会社 富士国際旅行社

恐れ入りますが、振込手数料は各自ご負担願います。なお、大変恐縮ではございますが、金融機関振込票のお客様控をもって領収書に代えさせていただきますので、ご了承ください（領収書の郵送が必要な方は弊社までご連絡ください）。

③ツアーの実施が確定しましたら、弊社よりご連絡いたします。

④ご出発の約10日前には出発当日のご案内や日程の詳細などのご旅行資料を送付いたします

株式会社 富士国際旅行社 宛

●お申込後、当社から送付します取引条件説明書面に記載の旅行条件および旅行手配のために必要な範囲内での運送・宿泊機関等、その他への個人情報の提供について、ご確認ください。

参加申込書 名護屋城から舌岐・対馬 4日間 【11/30(水)発・4/19(水)発・5/24(水)発】 ←いずれかに○をお付けください

ふりがな		性別	年齢	ふりがな		性別	年齢
氏名			歳	同行ご家族			歳
住所	(〒)			電 話	() -		
				携帯番号	() -		
生年月日	年 月 日 生			部屋タイプ（旅行中）	□ 1人参加 ※一人部屋利用/追加料金15,000円がかかります。 □ 2名～3名参加：() 様と同室を希望 □ 2名～3名部屋：どなたでも良い(男女別)		
勤務先 あるいは 国内 連絡先	連絡 先名 住所 () -			旅行社への 連絡事項	アレルギーがある方、健康状態など旅行社へ予め連絡事項がある場合、記入ください。 ()		

名護屋城から国境の島 4日間
舌岐・対馬をめぐる

旅行期間

旅行代金

最低実施人数

添乗員

申込締切

旅のポイント

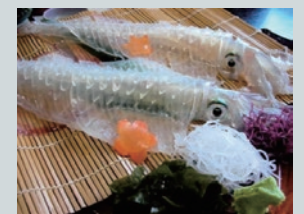
※写真は全てイメージです

- ①2023年4月19日（水）～4月22日（土） ￥179,000円
- ②2023年5月24日（水）～5月27日（土） ￥179,000円

20名様（定員10名様） 羽田空港より 各出発日の 同行します 21日前の営業日

福岡空港集合・解散の場合は上記旅行代金から 30,000円引き とさせていただきます。
※羽田空港以外の発着、現地参加希望の方はお問合せ下さい。

- ◆日本と朝鮮の古代からの文化交流、朝鮮通信使の歴史と秀吉の朝鮮侵略について学びます
- ◆名物のイカ料理や、新鮮な海鮮料理など各地の郷土料理もお楽しみください♪



企画・実施

 株式会社 富士国際旅行社

〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町 1-1-7 ヒューリックみなとみらい11F-4



月 日	都 市	行程・宿泊地・食事（朝・昼・夕）
①	東京・羽田空港発 福岡空港着	羽田空港集合(午前8時頃) 空路、福岡へ
	福岡空港発 唐津着	専用車にて唐津へ 着後、午後：唐津市内見学 * 名護屋城博物館(学芸員の方の解説で) * 名護屋城址 唐津市内ホテル着
②	唐津市内ホテル発 唐津東港発 壱岐・印通寺港着	午前：フェリーにて壱岐へ 午後：壱岐島内見学 * 一支国博物館 * 岳の辻展望台 * 原の辻遺跡(朝鮮半島との交流が盛だった弥生時代の一支国の集落) * 朝鮮通信使の史跡
	壱岐島内ホテル泊	
③	壱岐島内ホテル発	午前：壱岐島内見学 * 元寇の遺跡 * 古墳群
	壱岐・芦辺港発 対馬・厳原港着	高速船にて対馬へ 着後、午後：対馬島内見学 * 対馬博物館 * 万松院(対馬藩主宗家の菩提寺) * 長寿院の雨森芳州の墓 * 修善寺の崔益鉉殉国碑
④	対馬島内ホテル発	対馬島内見学 * 烏帽子岳展望台 * 韓国展望所 * 豊砲台跡 * 日露友好の丘(ハルツク艦隊の負傷兵を島民がもてなした記念)
	対馬空港発 福岡空港発 東京・羽田空港着	見学後、空港へ 空路、福岡へ 航空便を乗り継ぎ羽田へ 着後、解散(羽田空港到着18時頃)

●利用航空会社：日本航空、全日本空輸、スカイマーク ●利用バス会社：太閤観光、壱岐交通、ホテル対馬交通、昭和バス
●宿泊予定ホテル：唐津市内＝唐津ロイヤルホテル、唐津シーサイドホテル、唐津第一ホテルリパール、ステラコート／壱岐島内＝壱岐島荘、ビュホテル壱岐、網元、旅館ニュー長州／対馬島内＝ホテル対馬、東横イン対馬厳原
●旅程表のマーク：朝＝朝食、昼＝昼食、夕＝夕食、○＝食事つき、×＝自由食、機＝機内食

“日本と韓国の間”

九州と朝鮮半島を隔てる対馬海峡。黒潮から分かれた対馬海流が流れるこの海に、日本の歴史上の文献にはじめて名前が記された島々が浮かんでいます。「邪馬台国」論争で有名な『魏志倭人伝』に「投馬国」「一大国」とあるのは今の対馬と壱岐だと考えられています。

九州から約130キロメートルの距離にある対馬は、韓国からはわずか53キロメートル。古代から外交使節や貿易船、時には侵略戦争の軍勢が行き交うこともあった国境の島でした。

今回の旅では、豊臣秀吉の朝鮮出兵からの侵略の歴史と、朝鮮通信使や学問で日本と朝鮮を結んだ人物に焦点をあてて見学をします。



唐津



佐賀県北部の中心地。壱岐・対馬同様、対馬海流がもたらす海の幸が豊富です。特に唐津で水揚げされるイカは美味なことで知られています。市内の松浦半島には豊臣秀吉の朝鮮出兵時に拠点となった肥前名護屋城跡があります。江戸時代には唐津藩の城下町でした。

名護屋城跡

名護屋城は豊臣秀吉が朝鮮に攻め込んだ文禄・慶長の役(朝鮮側では干支から壬申丁酉の倭乱といえます)の基地として九州北部に築かれました。旧城内にある博物館は出土品だけでなく朝鮮の役を含めた歴史の流れ全体が解りやすく展示されています。

壱岐

唐津から北へ30kmほどの玄界灘に浮かぶ島です。航海の安全を願う海の民から島自体が神としてあがめられていました。東部にある原の辻遺跡は、弥生時代末期の大規模集落跡で『魏志倭人伝』に見える「一支国」のことではないかと推定されています。



原の辻遺跡・一支国博物館

原の辻遺跡は、一支国の王都である弥生時代の大規模環濠集落跡です。『魏志倭人伝』に描かれた国で唯一、国の位置と王都の場所の両方が特定された遺跡として知られています。遺跡を見渡せる高台にたつ一支国博物館では、かつての姿をわかりやすく紹介しています。

知られざる文化交流 ～雨森芳洲と崔益鉉～

東アジアの知識階級は国を問わず儒学を学びました。共通の学識を修めた儒学者たちは国際交流でも大きな役割を果たしています。17世紀、対馬藩に仕えた雨森芳洲(あめのもりほうしゅう)は朝鮮通信使の接待役として活躍し、近代には日本が進めた韓国の植民地化に抵抗した崔益鉉(チェイッキョン)が対馬に幽閉され、地元民に書を請われるなど敬われつつ世を去っています。



対馬

日本と朝鮮半島の間、対馬海峡にある島です。地理的・歴史的に大陸とのつながりが深く、ツシマヤマネコなど固有の動植物も生息しています。石葺き屋根の集落や、サツマイモから作る郷土料理「ろくべえ」など風土も独特です。

朝鮮通信使

鎖国のため外国との国交をたっていた江戸時代に、正式に国交をおこなっていたのが朝鮮でした。もとは室町時代に返礼の使者として来日していた朝鮮通信使は、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に断絶し江戸時代に再開されました。使節団は正使・副使・従事官以下500名近い人員で構成され、使節団を案内する対馬藩からは約800名が警備のために道中同行したと云われています。学者や書家、画家もいたので、人々の交流は日本の文化にも大きな影響を与えています。

壱岐・勝本では、大規模な接待所が設けられておりましたが、現在はそこに小さな阿弥陀堂が残されています。

※写真は全てイメージです。